



## 答 辞

花の蕾も膨らみ、あたりはすっかり春らしい気候となりました。

武庫川女子大学で過ごした4年間はあっという間でしたが、数え切れないほどの思い出が私たち卒業生の胸の内にあります。

入学当初、新しい環境で過ごすことに緊張や不安を感じる一方で、これから始まる大学生活にわくわくしながらスタートを切りました。はじめは、満員電車での通学に疲れたり、慣れない90分の講義を受けたりしながら、一日一日ついていくのが必死でした。友達にはできるのだろうか、どんなことを勉強していくのだろうか、と頭を悩ませていたことを昨日のように感じます。それでも一か月もすると仲間ができ、武庫川女子大学ならではの丹嶺合宿や体育祭、文化祭を通して一緒に楽しんだり、助け合ったりし、充実した日々を過ごすことができました。

さて、私事にはなりますが、私は武庫川女子大学で様々なことに挑戦し、かけがえのない仲間と先生に出会いました。初めてとなる書道ゼミでの学外卒業制作展、3年生から入部した競技スキー部、教師になるための特別講座の受講が特に印象に残っています。

書道ゼミでは、学外で展覧会を開催することが決まった当初、どれほどの人が見に来てくださるのか、ゼミ生が初挑戦となる仮名作品は完成するか不安でした。また、良い作品をつくらなければならないと思うあまり、練習すればするほど、理想の線を表現できず焦りました。そんな時に、同じように悩むことを打ち明けてくれた仲間、一緒に頑張ろうと背中を押してくれる仲間がいて、前に進むことができました。また、ゼミの先生は学生それぞれの良い点を褒めて、さらに自分の力を伸ばしてくださり、私にとって大きな自信となりました。そして展覧会では、地域の方をはじめ、本当にたくさんの方が足を運んでくださいました。「元気をもらった、ありがとう」という言葉を頂いた時、私たちの作品が人の心を動かせることを誇りに思いました。

競技スキー部では、技術と体力を必要とするクロスカンントリー競技の魅力に惹かれ、3年生で思い切って入部しました。3年生にも関わらず、先輩後輩が温かく受け入れてくれ、仲間と共に全力で体を動かせることに楽しさと喜びでいっぱいでした。大会では、経験が少ないために最後尾でゴールすることが何度もありました。形にならない自分の滑りに恥ずかしさと悔しさを痛感したこともありますが、支えてくれる仲間や後輩がいたからこそ乗り越えて強くなれました。

そして、教員になるための特別講座では様々な学科の仲間と共に勉強に励みました。数えきれないほどの問題を解き、何度も仲間、先生と面接の練習をしました。毎日遅くまで学校に残り、帰宅するという生活から逃げ出したいくなることもありました。それでも最後まで頑張れたのは、学科を超えて同じ目標に向かって切磋琢磨した仲間、そして毎日1限から5限まで一生懸命指導してくださった先生方がいたからです。

私たちは4月から、新しい環境でそれぞれの道を歩んでいきます。武庫川女子大学を卒業することに名残惜しさはありますが、春から社会人としてスタートを切ることへの楽しさと、強い責任感があります。また、本当にやっているのだろうか、という不安もあります。しかし、私たちには武庫川女子大学4年間におけるたくさんの学びと経験があります。壁にぶつかった時には大学での自分を思い出し、それを強みとして、また時には仲間を頼り、力をもらいながら、一步一步道を切り開いていきます。私たちはこれからも挑戦、成長し続けて参ります。

最後になりましたが、武庫川女子大学関係者の皆様のご健闘とご多幸をお祈りしますとともに、母校の更なる発展を願いつつ答辞とさせていただきます。

令和2年3月21日

武庫川女子大学 文学部／健康・スポーツ科学部

卒業生総代 文学部 日本語日本文学科

落 海 あすか

